

## 間接的貢献を含めたサステナブルファイナンスの対象拡張

### SBI 新生 Enabler/Accelerator モデル

2026年6月



**株式会社 SBI 新生銀行**

<https://www.sbishinseibank.co.jp/>

## ■ エグゼクティブ・サマリー

本コンセプトペーパーは、持続可能な社会の実現に向け、従来のサステナブルファイナンスの対象を拡張する新たな考え方として、「SBI 新生 Enabler/Accelerator モデル」を提示するものである。

近年、気候変動対応や SDGs 達成に向けた取り組みと、それを支えるサステナブルファイナンスは拡大している一方、現行の取り組みを継続するだけでは、2050 年ネットゼロや SDGs の達成が困難であることが指摘されている。こうした背景を踏まえ、当行は、環境・社会課題の解決に直接的なインパクトを創出する事業や事業者に対するサステナブルファイナンス組成・評価に加えて、そうしたインパクトの実現や拡大に不可欠な「間接的貢献」を担う事業や事業者も含め、持続可能な社会の実現に向け、社会発展や産業転換を加速させるための新たなアプローチが必要と考え、このモデルを策定した。

本モデルは、新たな金融プロダクトを創設するものではなく、当行が既存のグリーンローンやサステナビリティ・リンク・ローン等の市場標準とされるサステナブルファイナンス・フレームワークを活用するにあたり、間接的貢献を担う事業や事業者を対象とし得る条件を明確化するための基本的な考え方を示すものである。

具体的には、まず「事業活動単位」に着目し、バリューチェーン上、環境・社会インパクトの発現に不可欠な活動を Enabling Activities (EA)、インパクトの質的又は量的な拡大・向上に寄与する活動を Accelerating Activities (AA) と定義する。その上で、これらの活動を担う企業について、理念や方針、環境・社会リスク管理体制等を含めた「企業体単位」での適格性を確認し、Enabler または Accelerator として位置づける。

EA や AA はその用途や提供先によっては持続可能性と必ずしも整合しない活動を支援し得る側面も有する。このため本モデルでは、重大な負の環境・社会影響が生じないこと、ならびに他の持続可能性目標を阻害しないことを重視し、企業体全体を評価対象とする運用とする。これにより、正のインパクトが負の影響を上回る状態を担保しつつ、環境・社会インパクトの最大化を図ることを企図している。

## ■ 問題意識と目的の提示

当行は 2020 年に銀行の法人ビジネスにおいて、サステナブルインパクト推進部を設立し、独自のサステナブルファイナンスフレームワークの策定及びサステナブルファイナンス評価の内製化を行い、グリーンローンをはじめとして、これまでに 100 件以上のサステナブルファイナンス案件を組成・評価してきた。これらの案件の多くは、サステナビリティに関する取り組みに積極的な企業、又は当該企業が実施するプロジェクトにより創出される環境・社会的インパクトを対象とするものであった。当行はこうした企業のサステナブルファイナンスに携わることを通じて、お客様理解の深化と、より良い関係性の構築に寄与しつつ、持続可能な社会構築に資するインパクトの創出に一定の役割を果たすことができたと捉えている。

一方で、当行を含む多くの企業が、気候変動への対応や SDGs の達成に向けた取り組みを進め、それらを支えるサステナブルファイナンスの組成額は近年拡大しているにも関わらず、現在の取り組みを継続するだけでは SDGs

の達成や 2050 年ネットゼロの実現が困難であることが明らかになっている<sup>1</sup>。こうした認識のもと、当行は、これまでに取り組んできた環境・社会課題解決に直接的な貢献をもたらす事業や企業に対するサステナブルファイナンスの組成を、より一層推進することに加えて、持続可能な社会の実現に向けて、社会発展や産業の転換、社会のより良い変革を起こす取り組みを支援するサステナブルファイナンスの新たなアプローチについて検討を行った。

その結果、社会発展や産業の転換、社会のより良い変革を促進していくためには、当行のこれまでの取り組みに加えて、環境・社会課題解決に直接に資する製品・サービスではないものの、それらを提供する上で必要不可欠となるバリューチェーン上の製品を生産する活動や、サービスを提供する活動、さらには、当該製品・サービスの効果増大や普及促進に資する活動を行う企業に対して、積極的に金融・非金融の支援を行うことが重要であることに着目した。こうした企業を特定するためにコンセプトを整理し、SBI 新生 Enabler/Accelerator モデルを策定した。

## ■ SBI 新生 Enabler/Accelerator モデル

### SBI 新生 Enabler/Accelerator モデルの位置づけ

「SBI 新生 Enabler/Accelerator モデル」は、環境・社会インパクトを直接的に創出する事業・事業者に加え、そのインパクトの実現を支える重要な「間接的貢献」を担う事業・事業者についても、サステナブルファイナンスの提供対象として位置付けるための基本的な考え方を整理したものである。本モデルは、当行が各種サステナブルファイナンス・フレームワークを活用した金融面での支援や、アドバイザーなどの非金融支援を提供するにあたり、こうした「間接的貢献」を担う事業・事業者について、どのような条件のもとで対象とし得るのかを明確化することを目的としている。

### SBI 新生 Enabler/Accelerator モデルにおける適格性判断の考え方

本モデルでは、サステナブルファイナンスの提供対象としての適格性を、以下の 2 段階で確認する。

- ① 「事業活動単位」（当該活動が Enabling Activities/Accelerating Activities に該当するか）
- ② 「企業体単位」（当該企業が Enabler/Accelerator として適格か）

まず、①「事業活動単位」段階での適格性確認についてである。当行は、本モデルの目的であるインパクトの実現に資する「重要な間接的貢献」を担う事業には、大きく二つの形態があると整理した。ひとつは「環境社会課題

<sup>1</sup> 環境省, IPCC 第 6 次評価報告書 統合報告書 Summary for Policy Makers (政策決定者向け要約) 解説資料及び、国際連合広報センター, プレスリリース, 国連の新たな報告書, SDGs を救うための数兆ドルの開発投資の拡大を呼びかけ (2024 年 4 月 9 日付プレスリリース・日本語訳)

[https://www.env.go.jp/council/content/i\\_05/000130186.pdf](https://www.env.go.jp/council/content/i_05/000130186.pdf)

[https://www.unic.or.jp/news\\_press/info/50117/](https://www.unic.or.jp/news_press/info/50117/)

解決に直接に資する活動そのものではないが、それらの活動を実施する上で、バリューチェーン上『必要不可欠』となり得る活動」であり、これを「Enabling Activities」（以下、「EA」）とした。EA の特徴は、当該 EA が欠ける場合、経済合理性を考慮しても他の代替手段が乏しく、結果として最終的な環境・社会インパクトの発現が困難になるという点にある。もうひとつの形態は、「環境・社会課題の解決に直接資する活動そのものではないが、当該活動がもたらす最終的な環境・社会的インパクトを質的又は量的に拡大・向上させる活動」であり、これを「Accelerating Activities」（以下、「AA」）とした。AA は、当該活動がなくともインパクト自体は発現し得る一方で、AA があることにより、最終的な環境・社会インパクトの質や量の向上・拡大が見込まれる点に特徴がある。

EA および AA に共通する要件は、以下の通りである。

#### <共通要件>

- ・ 当該活動（の目的）が持続可能活動に向かっていること
- ・ 当該活動が持続可能な社会の実現に向けた他の目標を阻害しないこと
- ・ 当該活動に付随する重大な負の環境・社会影響がなく、環境・社会リスクが適切に低減・管理されていること
- ・ 最終的な環境・社会課題解決に帰属する環境・社会インパクトを示すことができるということ
- ・ 適用される法令・許認可や関連する業界基準・指針がある場合、それを満たしていること

さらに、EA 及び AA の性質を踏まえ、類型別の要件を以下の通り整理した。

#### <Enabling Activities 要件>

- ・ 直接的な環境社会改善効果をもたらす製品やサービスをもたらす持続可能活動のバリューチェーン上、その活動がなければ持続可能活動が成立しなくなる、「必要不可欠」なものであること
- ・ 経済合理性を考慮する範囲で、他の手段で代替することが困難であること

#### <Accelerating Activities 要件>

- ・ 当該活動がない場合と比較して、当該持続可能活動における環境・社会的便益が質的もしくは量的に著しく向上している、あるいは向上することが期待されるもの

但し、こうした環境・社会インパクトへの間接的な貢献が期待される活動という概念は、国際資本市場協会（ICMA）や、欧州連合（EU）のグリーン・タクソミー等においても用いられている一方、比較的新しい概念であり、現時点では統一かつ明確な定義は確立されていない。そのため、EA と AA の線引きは全てのケースにおいて必ずしも明確に引き得るという性質のものではない。よって当行では個別事例ごとにその活動の性質や企業体の意図等を踏まえて判断することとした。明確な線引きが難しい場合としては、例えばある 1 つの活動が EA と AA 両方の性質を併せ持つ場合や、最終的な環境・社会インパクトに対して、複数の EA（又は AA）が存在する場合、EA/AA のどちらかのみ存在する場合等が想定される。

また、上記要素に加えて、当該活動が他の持続可能な社会の実現に向けた目標を阻害しないこと、当該活動に付随する重大な負の環境・社会影響がなく、EA/AA に関連する環境・社会リスクが適切に低減・管理されていることなど両方に共通している要素もある。

「事業活動単位」の確認の結果、当該活動が EA 及び/又は AA として適格と判断される場合、当行は次に、「企業体単位」の適格性を確認する。当行は、EA に該当する活動を行う企業体を「Enabler」、AA に該当する活動を行う企業体を「Accelerator」と定義し、これらの企業への投融資をサステナブルファイナンスの対象として適格なものと整理することとした。「企業体単位」の要件は以下の通り。

#### <SBI 新生 Enabler/Accelerator（企業体）としての要件>

- ・ EA/AA の活動を現在行っている、もしくは今後行う予定であること
- ・ Enabler/Accelerator の企業理念やサステナビリティ方針と EA/AA 活動内容に整合性があること
- ・ 事業活動に付随する重大な負の環境・社会影響がなく、又はそれらの影響が特定され、適切な環境・社会リスク管理体制があること
- ・ EA/AA 以外の活動が、持続可能な社会の実現に向けた目標を阻害するものではないこと

なお、この Enabler 及び Accelerator についても、どちらかに明確に分類される場合もあれば、同一の企業体が EA 及び AA 両方の活動を行っており、「Enabler かつ Accelerator」となる場合も想定される。

当行は、EA や AA という活動そのものではなく、それらを担う企業体の方針や体制も確認したうえで適格性を判断する運用とする。これにより、EA/AA も含めた事業活動に付随する負の（ネガティブな）影響が、正の（ポジティブな）影響を上回ることがないように、適切なリスクマネジメントを行い、環境・社会インパクトの最大化を追求することを企図している。具体的には、Enabler 及び Accelerator の、企業理念や、長期戦略、サステナビリティ方針やリスクマネジメント方針・体制等を確認することで、持続可能な社会の実現を阻害する可能性を有するものを除外する。また、重大な負の影響を回避・最小化する観点を EA/AA の要件として組み込むことで、社会全体に及ぼす負の影響を小さくすることを意図している。

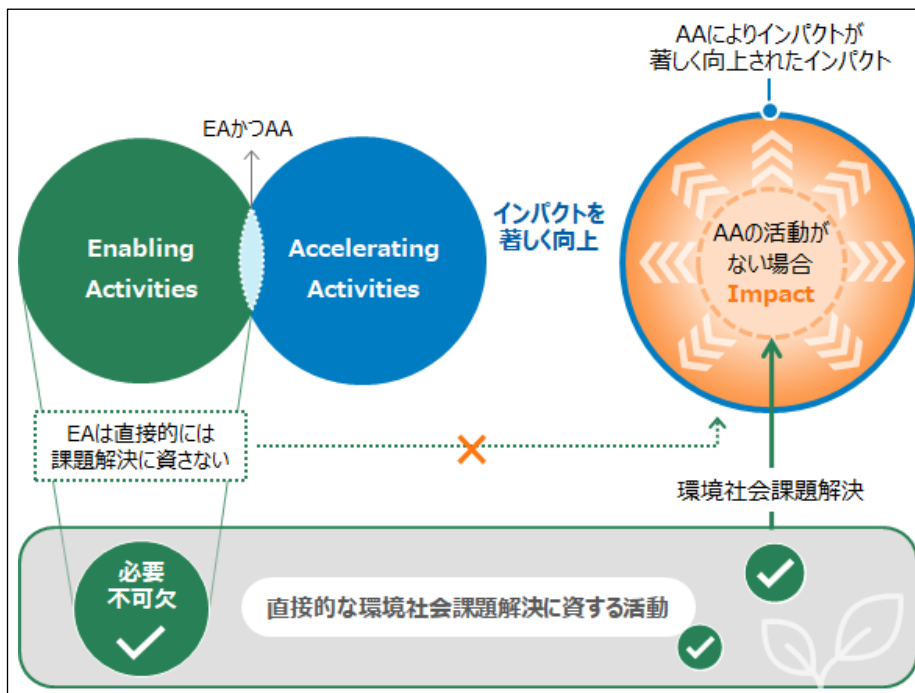
とりわけ、事業活動単位で適格性を判断する EA 及び AA は、その性質上、環境・社会課題の解決に資する活動を支える一方で、提供先や用途によっては、持続可能な社会の実現と明らかに整合しない活動を支援し得る側面も有する。例えば、環境・社会に対して重大な負の影響をもたらす用途において用いられる製品またはサービスの製造を支える形で EA が提供されている場合、当該企業を Enabler としてサステナブルファイナンスの対象とすることは困難であると考える。

このため当行は、EA としての機能や貢献の有無のみにとどまらず、当該事業活動が、当行が定める「責任ある投融資に向けた取組方針」において禁止される取引（以下、「禁止取引」）をはじめ、国際的な規範または社会通念に照らして重大な懸念がある用途や、環境・社会に対して重大な負の影響をもたらし得る用途（カーボンロツ

クインする可能性のある事業<sup>2</sup>も含む) に関与する可能性がないかを確認する。また、かかるリスクが存在する場合には、それらが適切に低減・管理されているかについても重要な確認観点の一つとする。

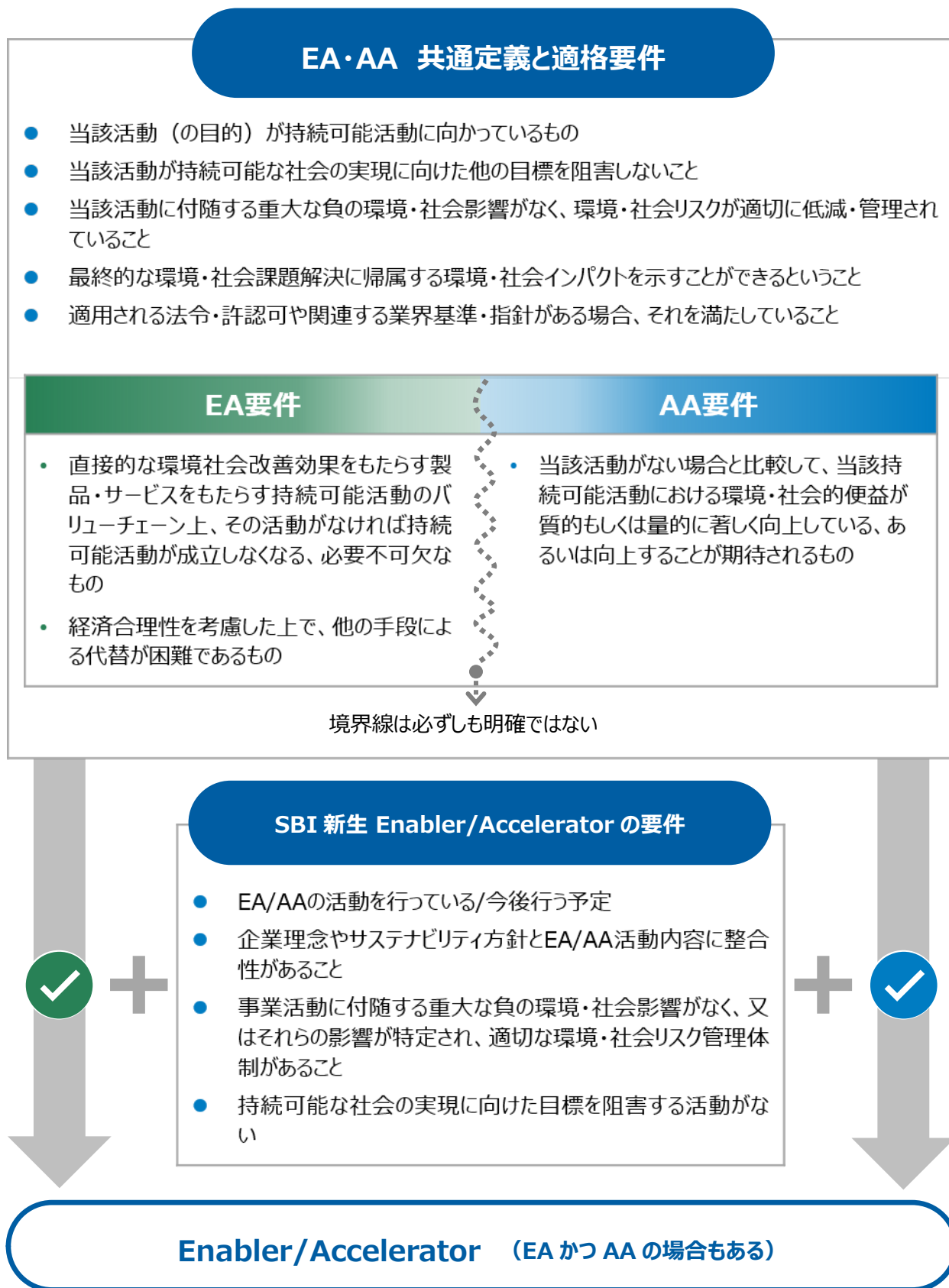
以下に、これまでに述べた EA/AA の概念図 (図 1) と、要件一覧 (図 2) を示す。

(図 1) EA/AA の概念図



<sup>2</sup> カーボンロックインは確立された定義があるわけではないものの、ここでは、数十年にわたり高排出を固定化し、脱炭素化への転換を難しくするような製品やサービスを製造又は提供する事業のことを指している。

(図2) Enabler/Accelerator の要件一覧



もともと、これらの定義や要件の説明のみでは、対象となり得る具体的なケースを必ずしもイメージしやすいとは言えないことから、以下のコラムにおいて、参考となる事例を二つ紹介する。

### 事例①

#### クリーンな電力の創出と供給を目的とした再エネ事業に関連した EA と AA について

2050 年ネットゼロ目標に向け、日本においても再生可能エネルギー（以下、再エネ）の最大限の導入が政策として掲げられている。また、再エネの最大限の活用を実現するためには、再エネの変動性を考慮した、系統整備や需給運用を含む電力網の構築・高度化が不可欠となっており、電力インフラ全体の整備も重要性が一層高まっている<sup>3</sup>。

再エネ発電事業においては発電された電力を系統につなげるための電力網の構築が、温室効果ガス（GHG）を排出しないクリーンな電力の創出・供給という最終的なインパクトを実現する上で必要不可欠な要素である。電力網の構築そのものは、直接的な環境社会インパクトをもたらすグリーンな活動と位置付けられるところ、その電力網を構成する電力ケーブルの製造は、再エネ発電による環境インパクトの発現に必要な活動である。このため、当該電力ケーブルの製造という活動は EA と整理され、同事業を行う企業が前述の要件を満たす場合には、Enabler と位置付けられる。

また、再エネは、天候条件に左右されるという弱点があり、発電量が増加し、電力網が構築されたとしても、電気はその性質上、蓄電池等の特段の手段を用いない限りはどこかに貯蔵しておくことはできない。そのため、各電力会社は電力の需給予測を行い、常に需要と供給を一致させるために発電量の調整を行っている。現状では、安定供給のための調整力の大部分は火力発電などが担っている。こうした中で、高度な電力需給予測を可能にするシステムや、電源運用の最適化を可能にするシステムを導入することにより、再エネ発電による電力を需要に応じて効率的かつ最大限に活用することが可能となる場合、当該システムは、最終的な環境インパクトの質的又は量的な向上に寄与する活動として AA と整理される。そして、これらのシステムを提供する企業が要件を満たす場合には、Accelerator に該当することとなる。

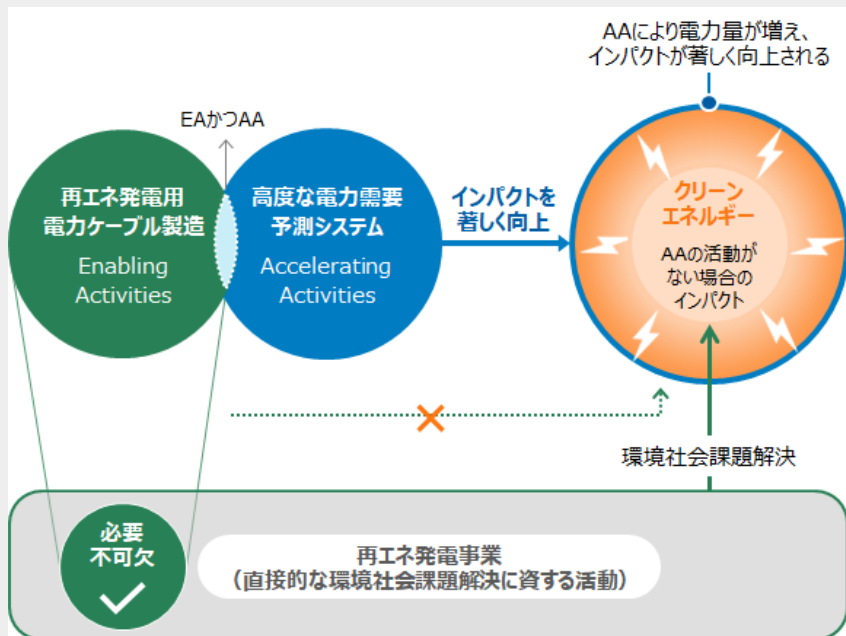
さらに、再エネ事業の中でも太陽光発電事業において、従来の硬く曲げることができないシリコン系太陽電池ではなく、薄く柔軟性を有するペロブスカイト太陽電池を利用した発電事業を行う場合、当該ペロブスカイト太陽電池の開発や素材の研究は、これまでシリコン太陽電池を設置することが困難であった場所での発電を可能にする活動といえる。仮に、ペロブスカイト太陽電池の導入により、クリーンな電力の創出・供給という最終的な環境インパクトを著しく向上させることを示すことができる場合、当該活動は、インパク

<sup>3</sup> 経済産業省資源エネルギー庁、エネルギー基本計（令和7年2月）、

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic\\_plan/pdf/20250218\\_01.pdf](https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/pdf/20250218_01.pdf)

トの発現に不可欠であるという点で EA の性質を有すると同時に、インパクトを質的・量的に拡大するという点で AA の性質を併せ持つ活動として整理することも可能である。

(図 3) 再エネ発電事業に関連した EA と AA について



## 事例②

### 医療における EA と AA について

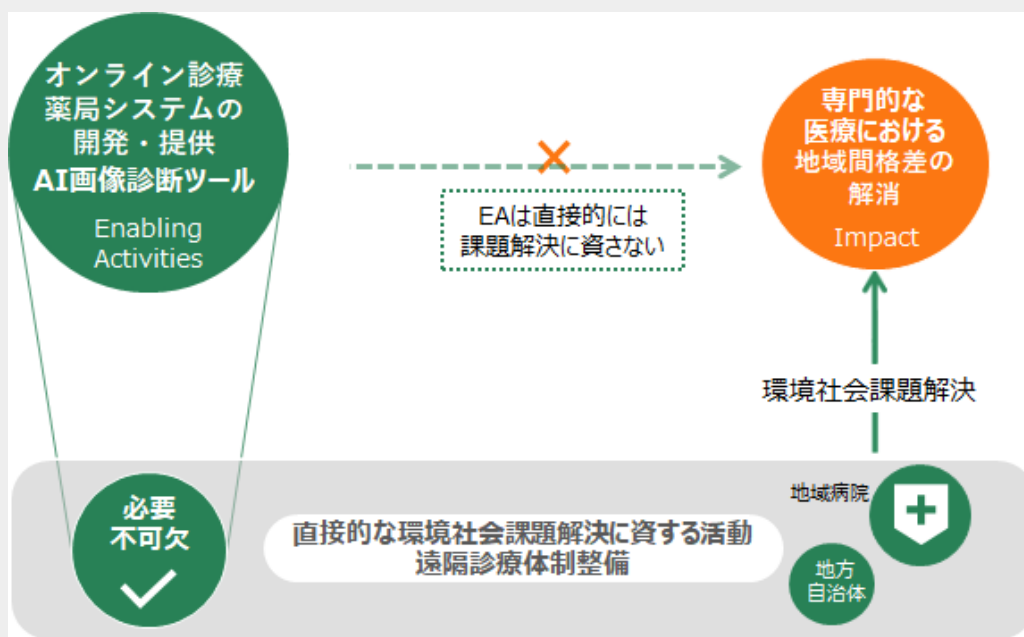
日本が抱える課題の一つに、国内の医師の地域偏在が挙げられる。厚生労働省の統計によれば、人口 10 万人当たりの医師の数が最も多い都道府県と最も少ない都道府県との間には、約 1.8 倍の格差が存在しており<sup>4</sup>、医師数の偏在によって医療リソースの偏在が生まれ、地域間の健康格差を生み出す原因となっている。特に、小児科、産婦人科・産科、外科などの専門医の偏在は深刻であり、住み慣れた地域で必要な医療を受けるということが難しくなりつつある地域も少なくない。

こうした課題を踏まえ、専門的な医療における地域間格差の解消を最終的に目指すインパクトと設定した場合、それを解決するために遠隔診療体制の整備をすることは最終的なインパクトを直接的に生み出す環境・社会課題解決に資する活動と位置付けられる。遠隔診療は、一部を除いて初回診療は対面で行うことが基本であるため、地域のクリニックやかかりつけ医との連携が必要である。また、無医村やへき地診療が必要な場所においては地方自治体との連携も不可欠である。その中でも特に、オンライン診療やオンライン薬局システムの開発・提供に関わる活動は、これらが欠ける場合、遠隔診療体制そのものが成立し

<sup>4</sup> 厚生労働省, 統計情報・白書, 各種統計調査, 厚労労働統計一覧, 医師・歯科医師・薬剤師統計, 結果の概要, 令和 4 (2022) 年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況, [https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/22/dl/R04\\_kekka-1.pdf](https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/22/dl/R04_kekka-1.pdf)

得ないという点で、最終的なインパクトの発現に不可欠な活動であるといえ、EA と整理される。また、AI による画像診断ツールの導入により、かかりつけ医の画像診断精度の向上や専門医との連携に要する時間の短縮が実現される場合、これらの活動も、遠隔診療体制を機能させるうえで重要な要素として EA に該当すると考えられる（図 4）。

（図 4）医療における Enabler



さらに、日本の医療分野においては、病院の赤字経営のような医療機関の経営悪化も深刻な課題となっている。国内の病院の約 7 割が赤字経営であり<sup>5</sup>、特に公立病院に至っては 83%が赤字<sup>6</sup>となっている。こうした状況は、病院の閉鎖や救急医療・産科等の不採算部門の縮小を招き、地域医療体制の脆弱化や、医療従事者の不足・質の低下、さらには公立病院の維持のため、地方財政への負担増加などにもつながり、社会保障制度全体の持続性にも影響を及ぼすおそれがある。

このような状況を踏まえ、地方医療体制の維持・向上及び持続可能な社会保障制度の提供を最終的に目指すインパクトと設定した場合、医療サービスの提供主体である病院は、直接的なインパクトを創出する主体として位置付けられる。そのうえで、この病院が生み出すインパクトを質的又は量的に拡大・向

<sup>5</sup> 厚生労働省, 第 25 回医療経済実態調査 (医療機関等調査),

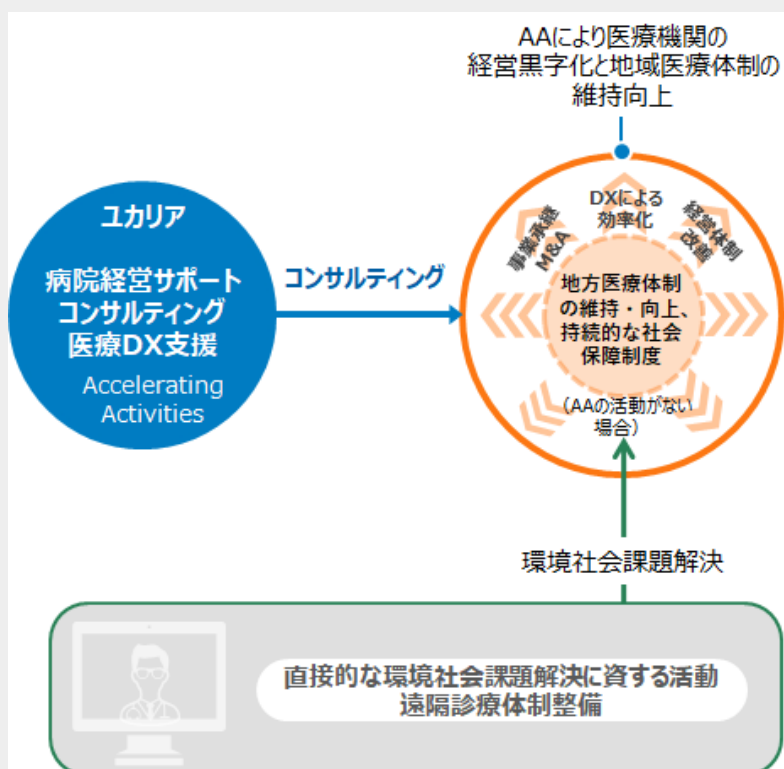
[https://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/database/zenpan/jittaityousa/dl/25\\_houkoku\\_iryokikan.pdf](https://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/database/zenpan/jittaityousa/dl/25_houkoku_iryokikan.pdf)

<sup>6</sup> 総務省, 政策, 地方行財政, 地方公営企業等, 公立病院経営強化, 決算状況・財政資料, 令和 6 年度病院事業決算の状況,

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/001034025.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/001034025.pdf)

上させる活動として、例えば株式会社ユカリア<sup>7</sup>が展開する医療経営総合支援事業は AA に該当し得る（図 5）。ユカリアは、事業承継や M&A に関するコンサルティングを通じた地域医療体制の維持・向上に努めているほか、医療と経営の分離、DX による効率化支援を通じた経営体制改善を通じて病院経営の改善を図っている。これにより、病院経営の黒字化を目指すとともに、持続可能な社会保障制度の提供にも貢献していると考えられる。すなわち、医療サービスを提供している病院が直接的なインパクトを生み出し、ユカリアはそのインパクトの拡大・向上に寄与する存在として、AA に位置づけられ得る（図 5）。

（図 5）医療における Accelerator



## ■ 本モデルの実装アプローチ

SBI 新生 Enabler/Accelerator モデルの活用により、当行は従来のサステナブルファイナンスの主な対象としてきた最終製品・サービスを手掛ける企業だけでなく、それらを成立・拡大させるバリューチェーン上にある企業を、Enabler や Accelerator として特定し、金融・非金融の両面からサポートを行うことが可能となり、具体的には、以下のような支援の提供が考えられる。

<sup>7</sup> 株式会社ユカリア（<https://eucalia.jp/>）はヘルスケアの産業化をビジョンとし、変革を通じて医療・介護のあるべき姿を実現することをミッションとして、病院の経営支援・運営支援を提供する「病院経営サポート」事業を起点に、様々なサービスやプロダクトを開発・展開している。また、医師を頂点とするピラミッド型の組織構造を変革し、フラットな組織構造をめざすとともに、病院経営を一気通貫で支援するユカリア独自のビジネスモデルを推進することで、社会に対するインパクトを創出している。

- 資金提供

Enabler/Acceleratorとして位置付けられる企業の中には、環境・社会課題を解決するために必要な製品・サービスを有しているものの、資金の制約により十分に活用されていないケースや、今後のスケールアップ又は普及促進に向けた資金が不足しているケースが想定される。こうした場合においては、銀行としてのファイナンス機能を通じて関与することで、持続可能活動の推進に資することを旨とする。

ファイナンスにあたっては、グリーンローンやサステナビリティ・リンク・ローン等、市場標準とされるサステナブルファイナンス・フレームワークを活用する。その際、EA 及び AA は、提供先や利用のされ方によって影響が異なり得ることを踏まえ、以下のような観点から追加的な確認を行う。さらに具体的な各サステナブルファイナンスプログラムの適用のあり方については、個別プログラムごとに検討する。

- ・ 対象企業の EA 又は AA が、当行が定める禁止取引等、国際的な規範や社会通念に照らし重大な懸念がある用途や、環境・社会に対して重大な負の影響をもたらし得る用途（例えば、人権侵害や非人道的行為に関与する活動）に用いられるリスクがないかかかるリスクが特定されている場合、当該活動の提供先や最終用途に関する管理体制の整備を含む、適切な低減策・管理策が講じられているか等

- 貢献の可視化支援

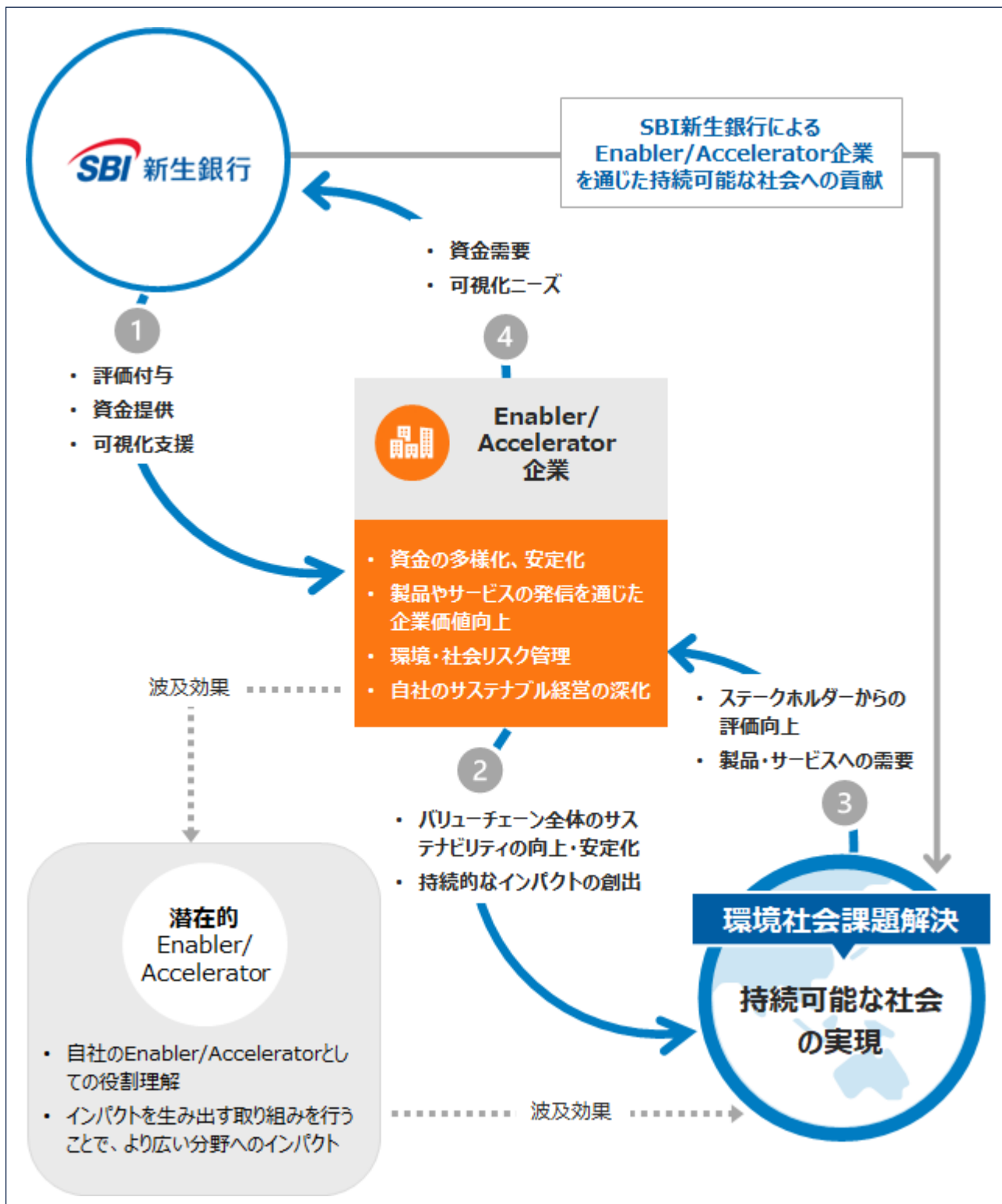
EA 及び AA は、明確な環境・社会改善効果が可視化されやすいエンドプロダクトと比較して、その効果がどのように、そしてどの程度、環境・社会課題の解決に貢献しているのかが十分に把握・説明されづらい場合が少なからず存在する。そのため、定量・定性的なデータを用いて、環境・社会課題解決に向けたインパクトのパスウェイやその貢献度を示す指標の整理、情報開示等を支援することにより、その価値を可視化することで、ステークホルダーとの対話を円滑にすることを支援するとともに、Enabler 及び Accelerator が自身の役割を認識し、インパクトの創出に資する取り組みを拡大する契機となることを旨とする。

## ■ 本モデルを通じて目指す価値とインパクト

上記のような取り組みにより、Enabler/Accelerator として位置づけられる企業は、資金調達が多様化・安定化に加え、社内外のステークホルダーに対しても、自社の製品・サービスの意義や価値を適切に示しながら対話することで、企業価値向上に繋げることができる。併せて、Enabler/Accelerator 企業が EA/AA に伴う重大な負の環境・社会インパクトを発生させないよう環境・社会リスクの管理に努めることを通じて、自社のサステナブル経営の深化にも資することが出来ると考えている。そして、Enabler/Accelerator 企業のサステナビリティが向上することで、最終的な環境・社会課題解決に至るまでのバリューチェーン全体のサステナビリティとレジリエンスが向上し、バリューチェーンの安定化を通じた持続的なインパクトの創出が期待される。これにより、直接的なインパクトの追求に加え、間接的なものを含めた当行が関与したインパクトがより広範な分野へ波及し、経済・産業社会が望ましいあり方に発展を加速していくことを旨とする。

また、この Enabler/Accelerator 企業にスポットライトを当て、その取り組みが社会全体に浸透・拡大していくことで、当行が現時点ではまだ接点を持っていない潜在的な Enabler/Accelerator 企業が、自身の果たし得る役割を改めて認識する契機となり、持続可能な社会実現に向けたポジティブなインパクト創出に取り組みを行うことによって、より大きなインパクトが生まれ、ひいては持続可能な社会の実現に貢献し、それを加速させていくという波及効果が生まれることも期待している。

(図 6) SBI 新生 Enabler/Accelerator モデルの意図する変化



前述したように、環境・社会インパクトへの間接的な貢献が期待される活動という概念は、ICMA や EU のグリーン・タクソミー等においても用いられつつあるものの、依然として発展途上の概念であり、国際的もしくは国内のサステナブルファイナンス市場において、EA や AA に関する統一的かつ明確な定義が確立されているとは言い難いと当行は認識している。

また、ある活動がバリューチェーン上で果たす重要性や、EA/AA を通じて達成される環境・社会課題の内容は、今後の市場動向や技術革新、地政学的要因を含む外部環境の変化に応じて変化し得るものである。その結果、仮に将来的に定義が確立した場合においても Enabler/Accelerator と位置付けられる対象の範囲は、拡大又は縮小する可能性があるものと考えられる。このため、当行はこうした前提に立ち、本モデルを通じて一義的な線引きを定義することよりも、サステナブルファイナンスの実務において、環境・社会インパクトの創出を支える「間接的貢献」という観点を明示し、議論の射程を拡張することを重視している。本モデルを打ち出すことにより、国内のサステナブルファイナンス市場においても Enabler/Accelerator という考え方の理解と浸透に寄与するとともに、より広範なステークホルダーを巻き込みながら、環境・社会課題に関するバリューチェーン全体の議論が活性化することを期待している。そして、本コンセプトペーパーが、Enabler/Accelerator の定義や役割について、実務も踏まえた観点から検討を深めていくための一つの材料となり、今後のサステナブルファイナンスの発展に向けた土台を築く一助となることを意図している。

